

8 就労の状況

(1) <在宅問35> 現在および過去の就労状況

問. 仕事（会社や作業所など）をしています（いました）か。

現在及び過去（20歳、25歳、40歳、55歳、65歳の頃）に、仕事をしていたかどうか、していない場合にはその理由としてあてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

仕事をしている（いた）か、いない（いなかった）かについては、現在では「仕事をしている」が50.6%、「仕事をしていない」が49.4%となっている。

「仕事をしていた」の割合は、20歳の頃で81.0%、25歳の頃で79.9%、40歳の頃で74.6%、55歳の頃で68.6%、65歳の頃で48.2%となっている。（図表8-1-1）

【障害者手帳種別】大きな傾向の違いはみられない。

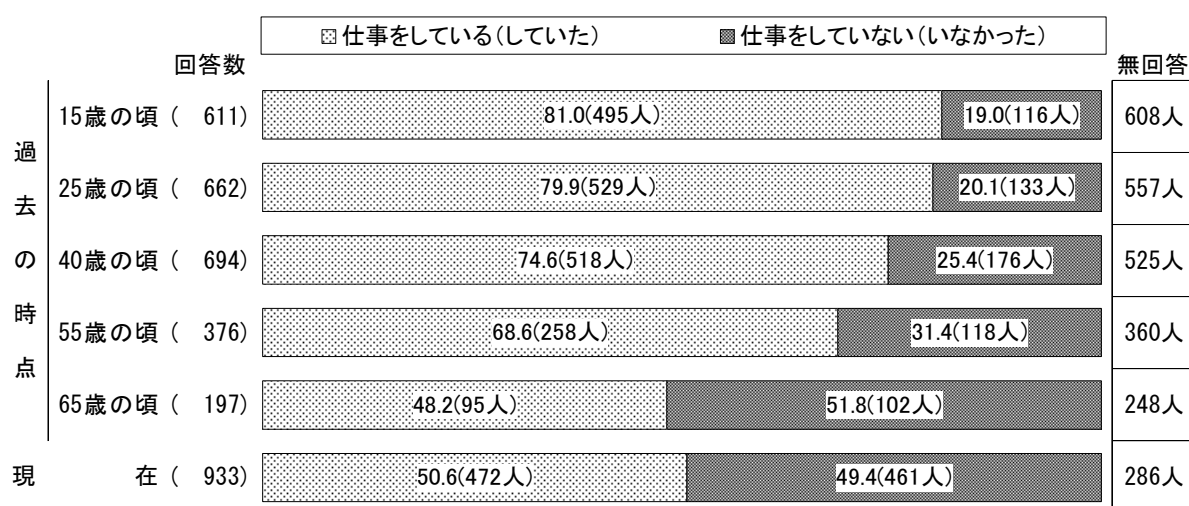
【年代・加齢】

身体障害、精神障害の20歳の頃は、8割を超える就労率だが、加齢とともに減少する。特に、精神障害の25歳の頃から40歳の頃で減少が著しい。知的障害は20～55歳の頃まで大きな差はなく6割台で推移している。（図表8-1-3）

【その他】

現在、ひとり暮らしでは、他の家族形態と比べて「仕事をしていない」（62.7%）が高くなっている。（図表8-1-6）

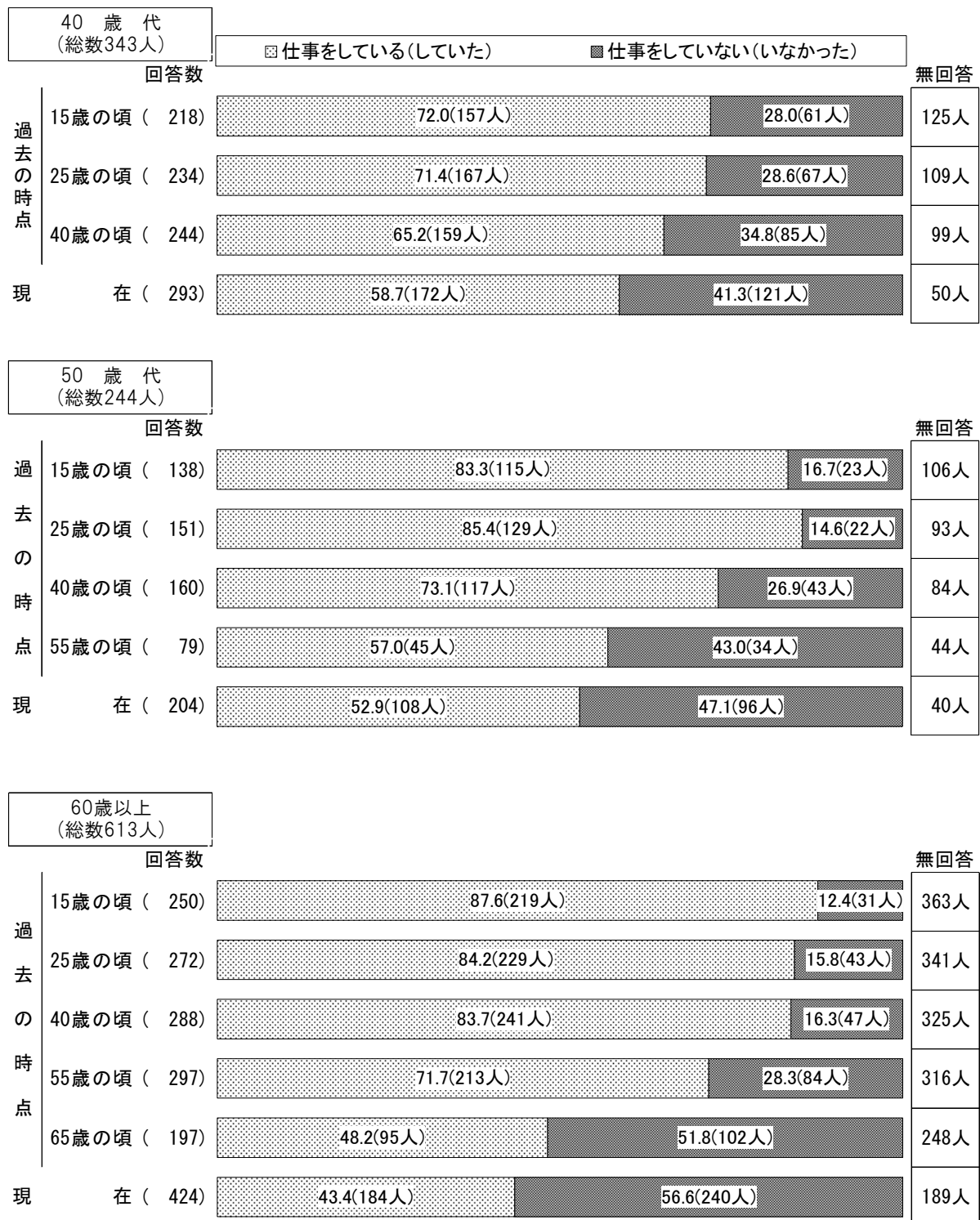
図表8-1-1 現在および過去の就労状況



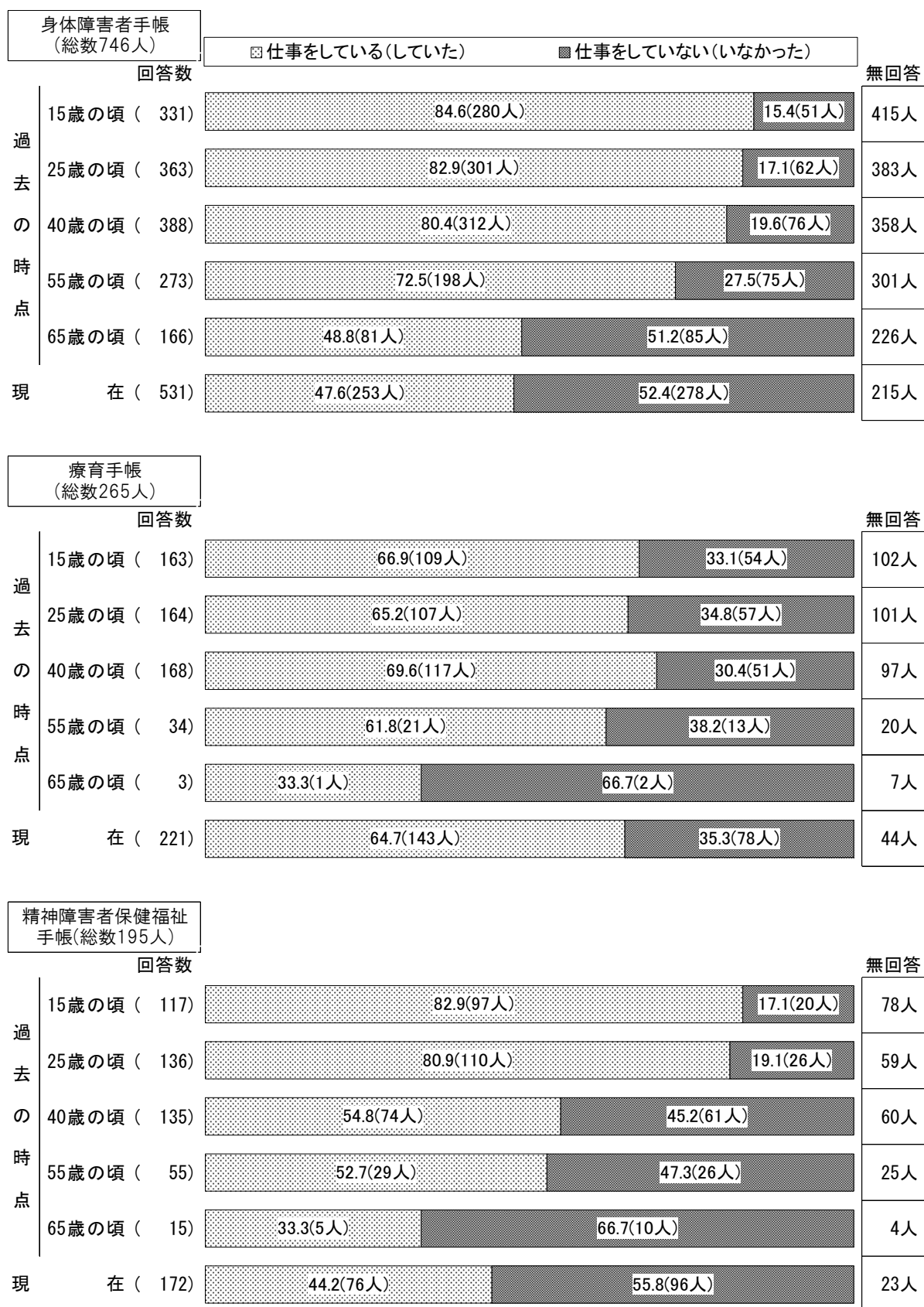
(注1) 傾向を把握しやすくするため、無回答の件数を比率算出の母数から除外した「回答数」を母数とした。

(注2) この項（図表8-1-1～図表8-1-9（220～228ページ））に共通して、54歳以下の人は「55歳の頃」の回答数に含まれない。同様に64歳以下の人は「65歳の頃」の回答数に含まれない。

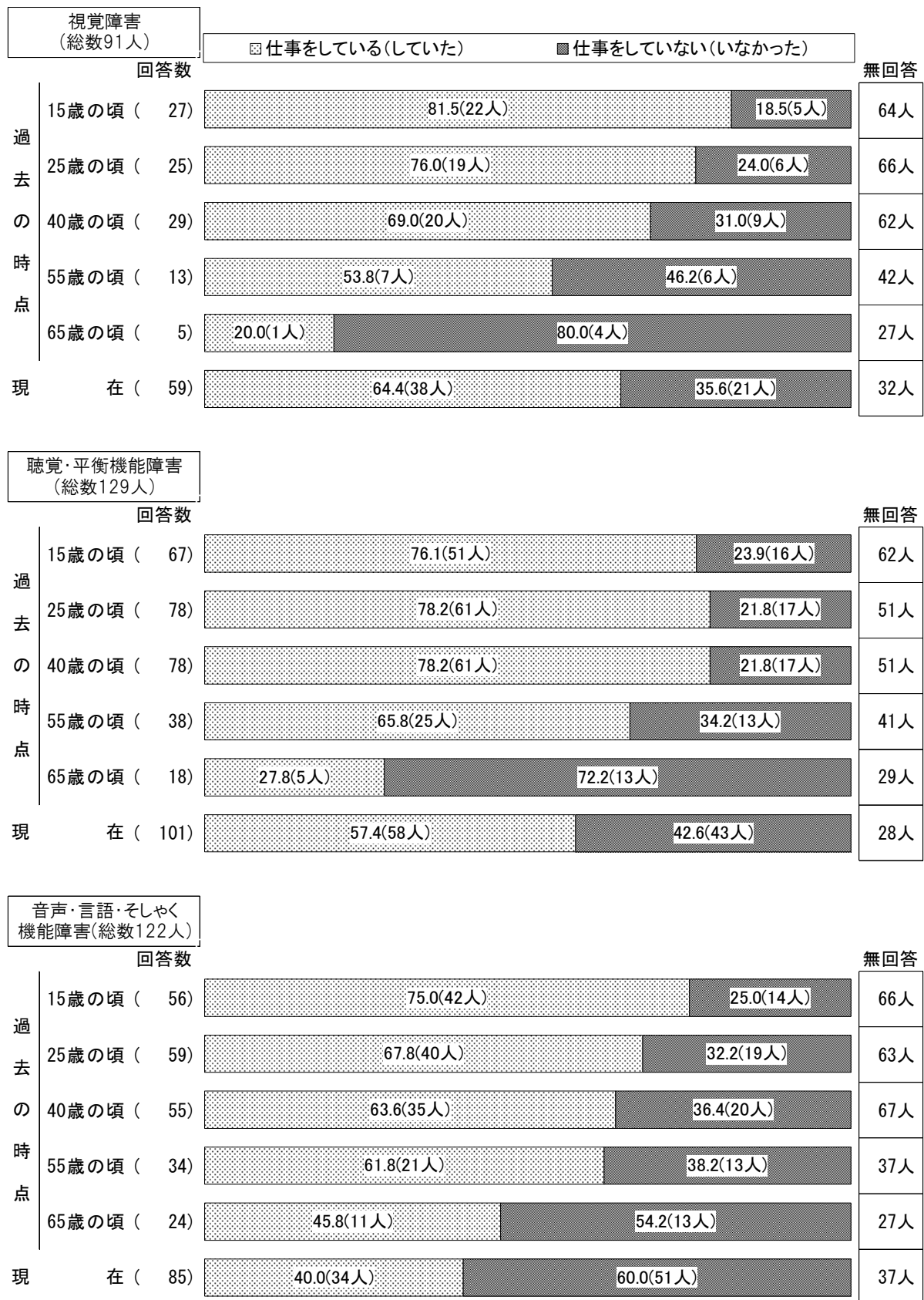
図表 8－1－2 ＜在宅＞現在および過去の就労状況一年代別



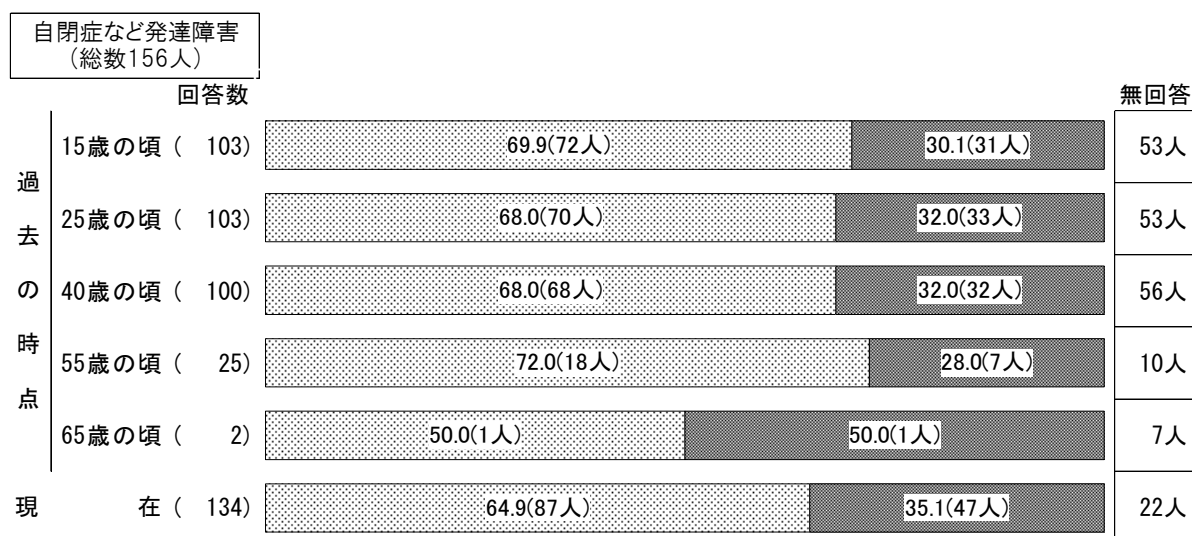
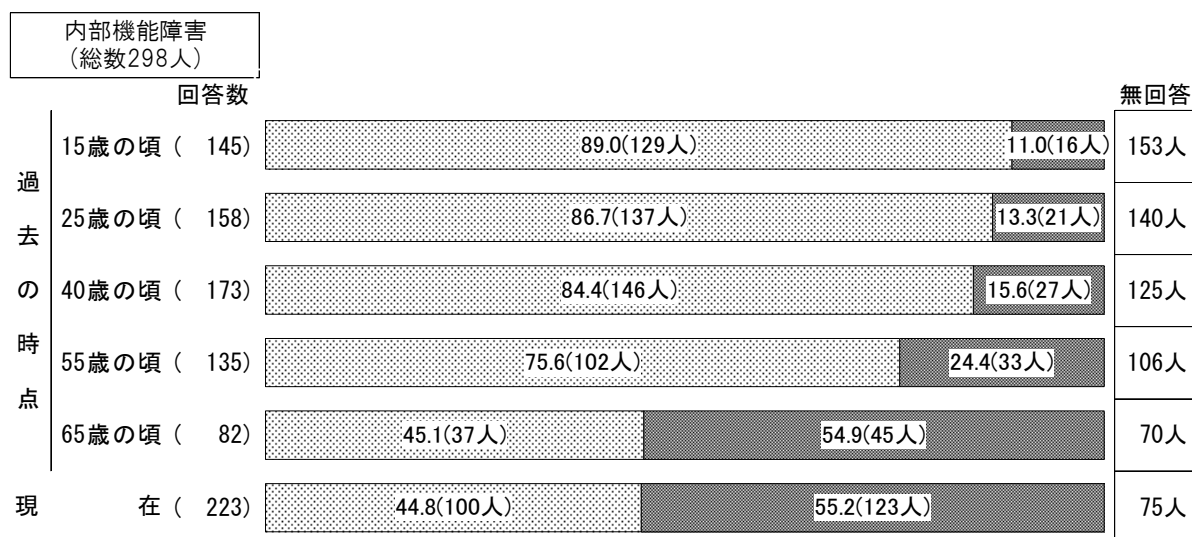
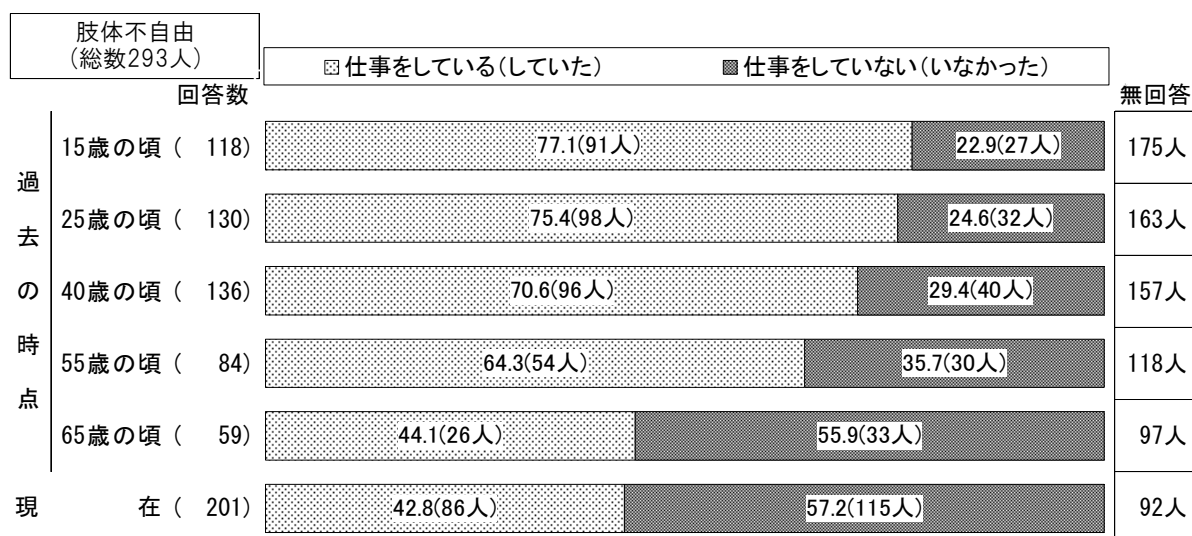
図表 8－1－3 ＜在宅＞現在および過去の就労状況－障害者手帳種別



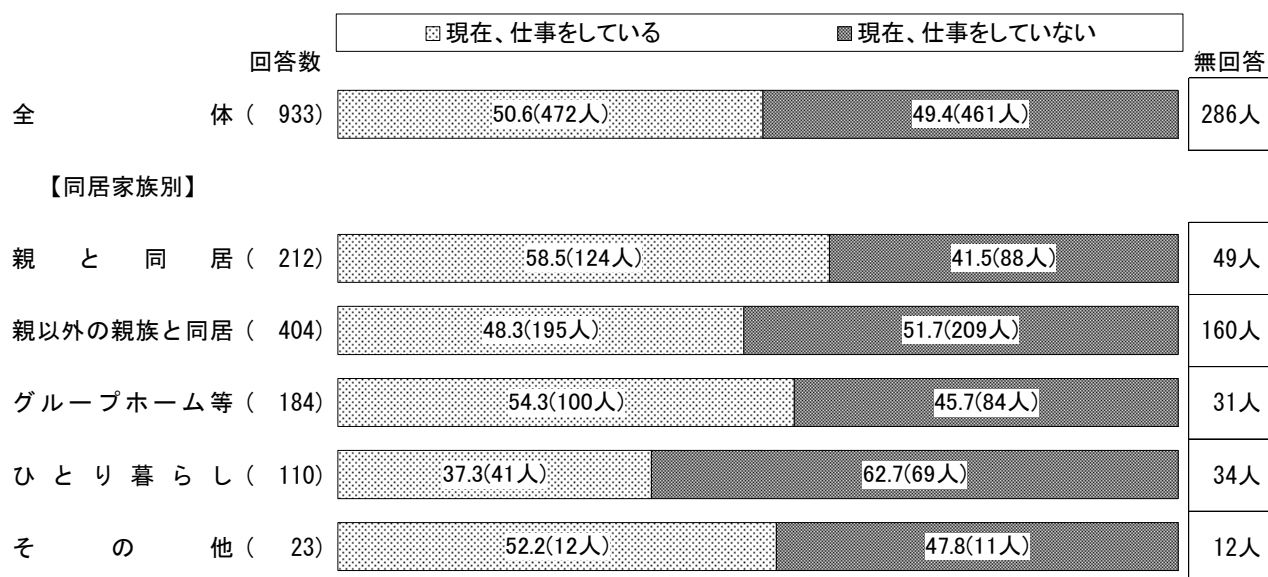
図表 8－1－4 ＜在宅＞現在および過去の就労状況－障害種別



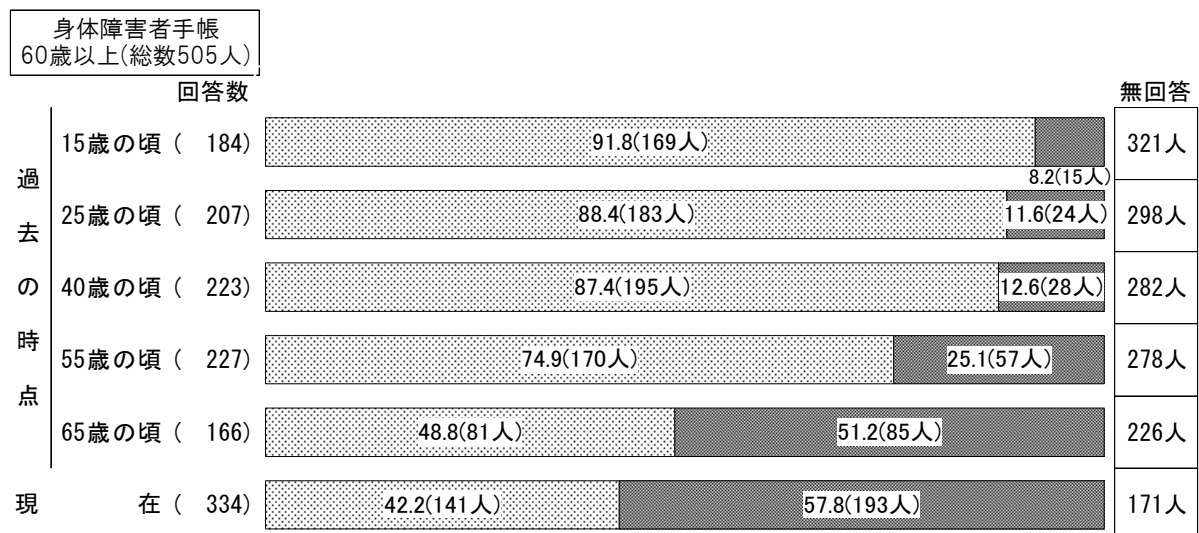
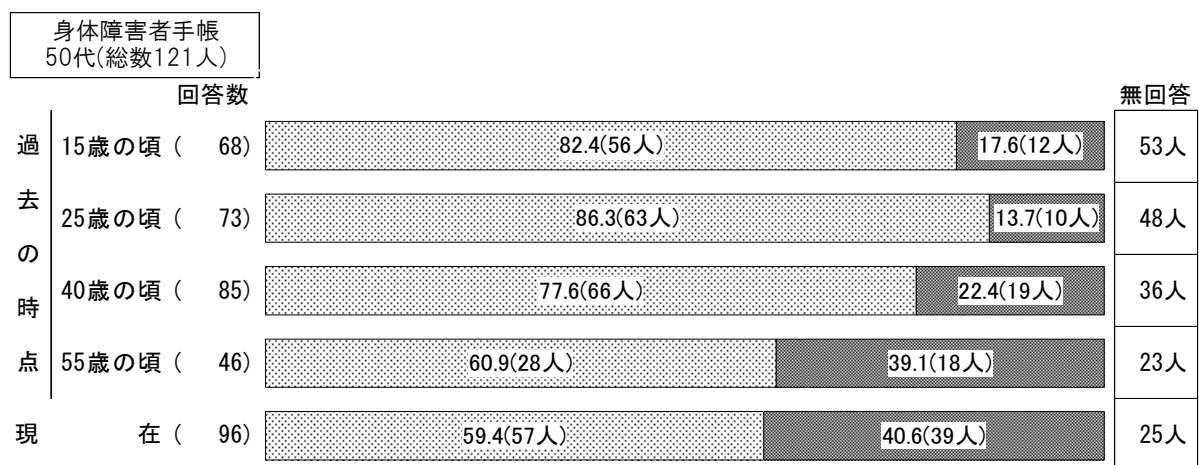
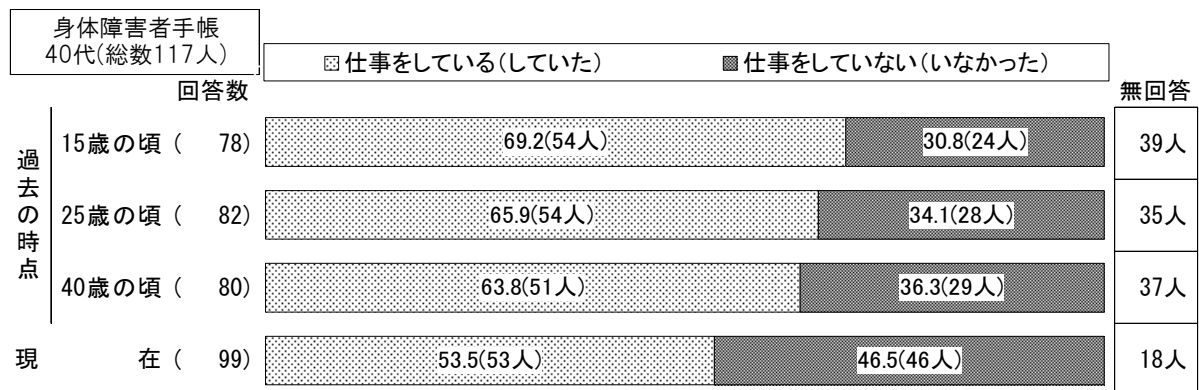
図表 8－1－5 ＜在宅＞現在および過去の就労状況－障害種別（つづき）



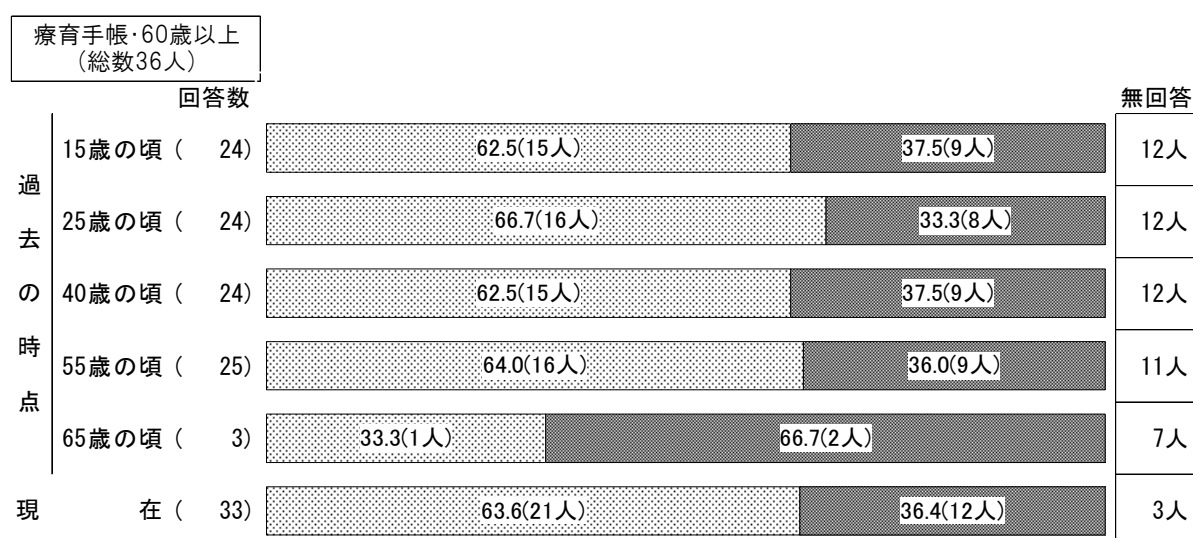
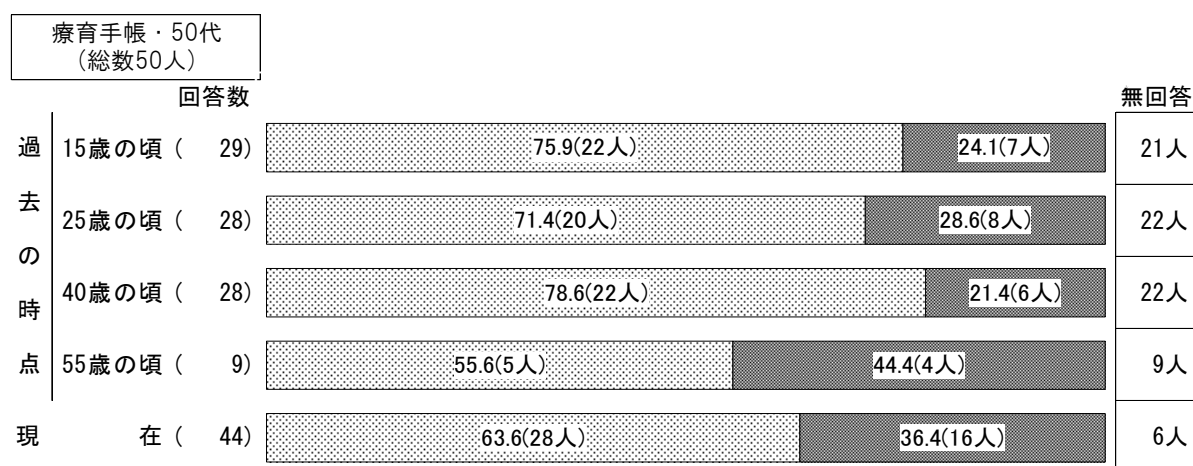
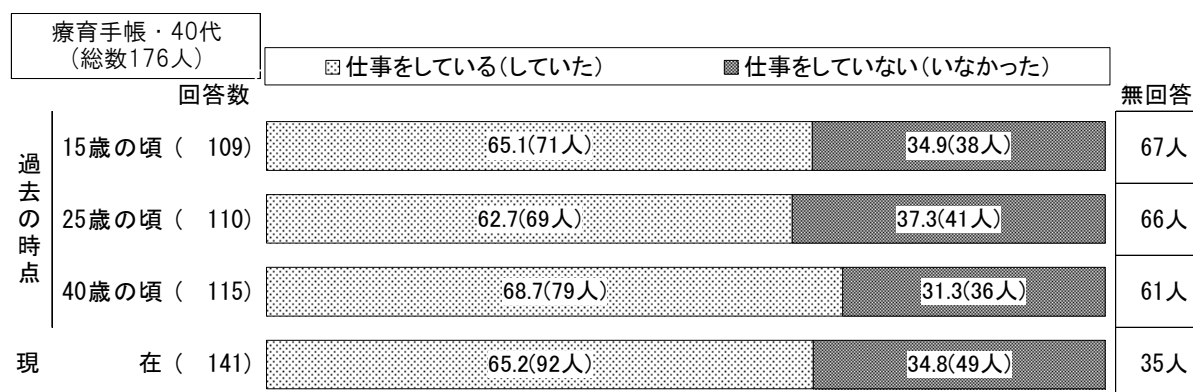
図表 8－1－6 ＜在宅＞現在の就労状況－同居家族別



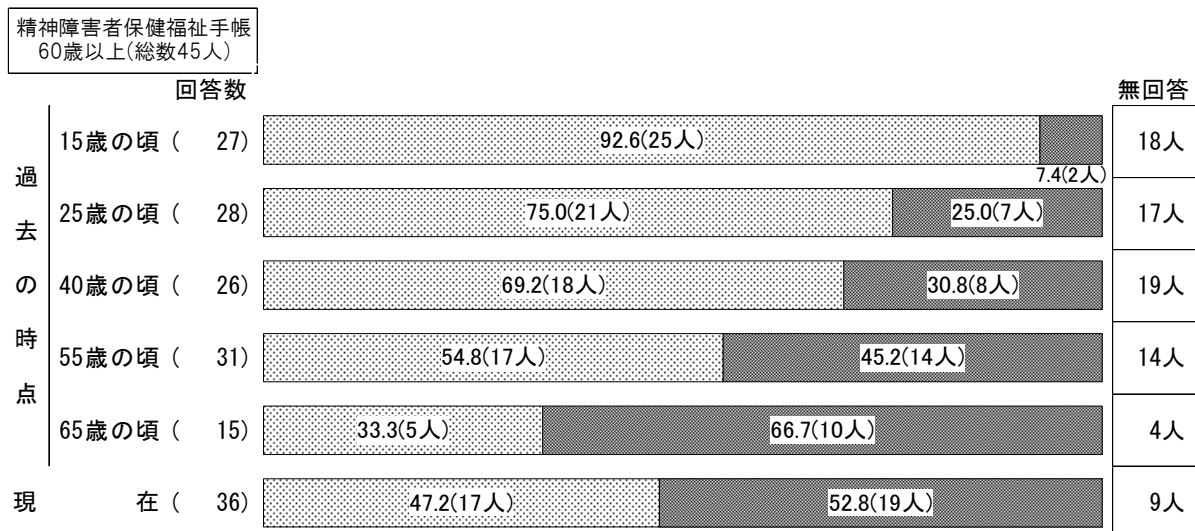
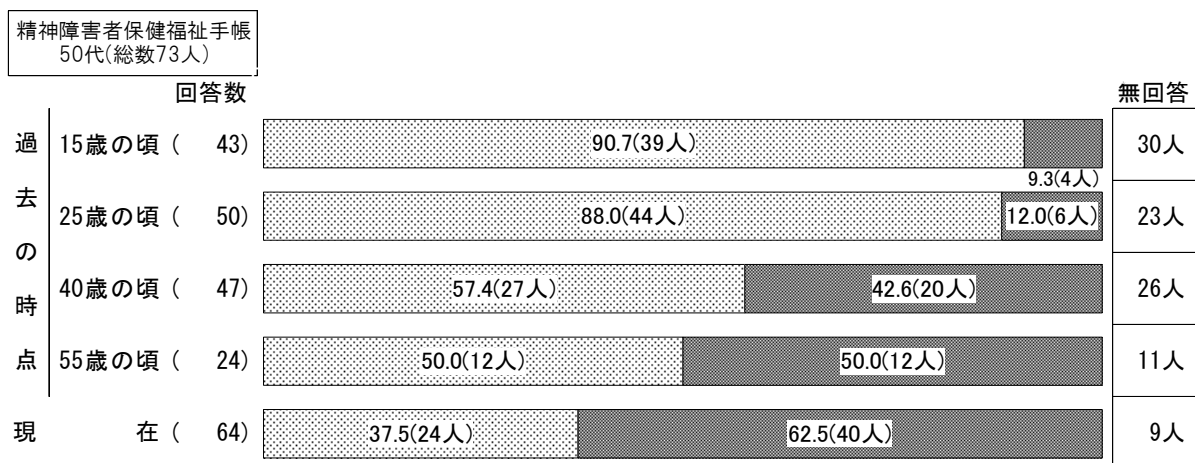
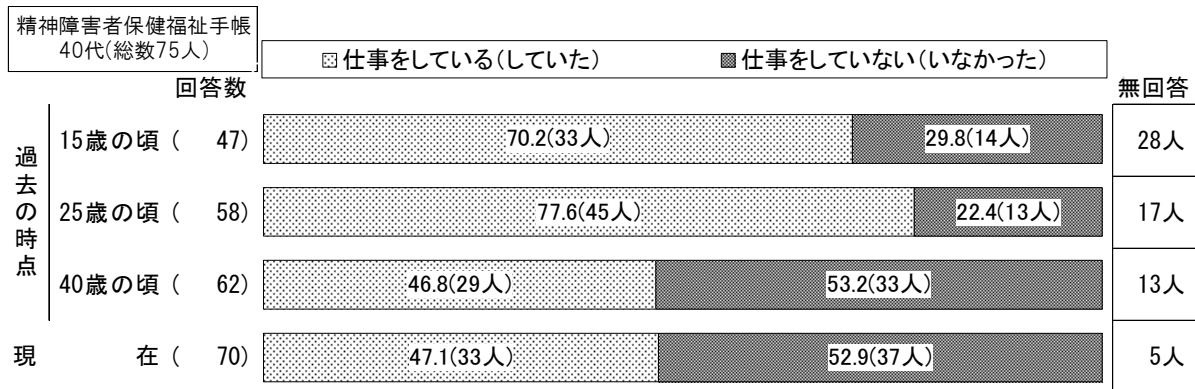
図表 8－1－7 ＜在宅＞現在および過去の就労状況－障害者手帳種別・年代別（身体障害者手帳）



図表 8－1－8 ＜在宅＞現在および過去の就労状況－障害者手帳種別・年代別（療育手帳）



図表 8－1－9 ＜在宅＞現在および過去の就労状況－障害者手帳種別・年代別（精神障害者保健福祉手帳）



(1-1) <在宅問35> 仕事をしていない（いなかった）理由

問. 仕事（会社や作業所など）をしています（いました）か。

現在及び過去（20歳、25歳、40歳、55歳、65歳の頃）に、仕事をしていたかどうか、していない場合にはその理由としてあてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

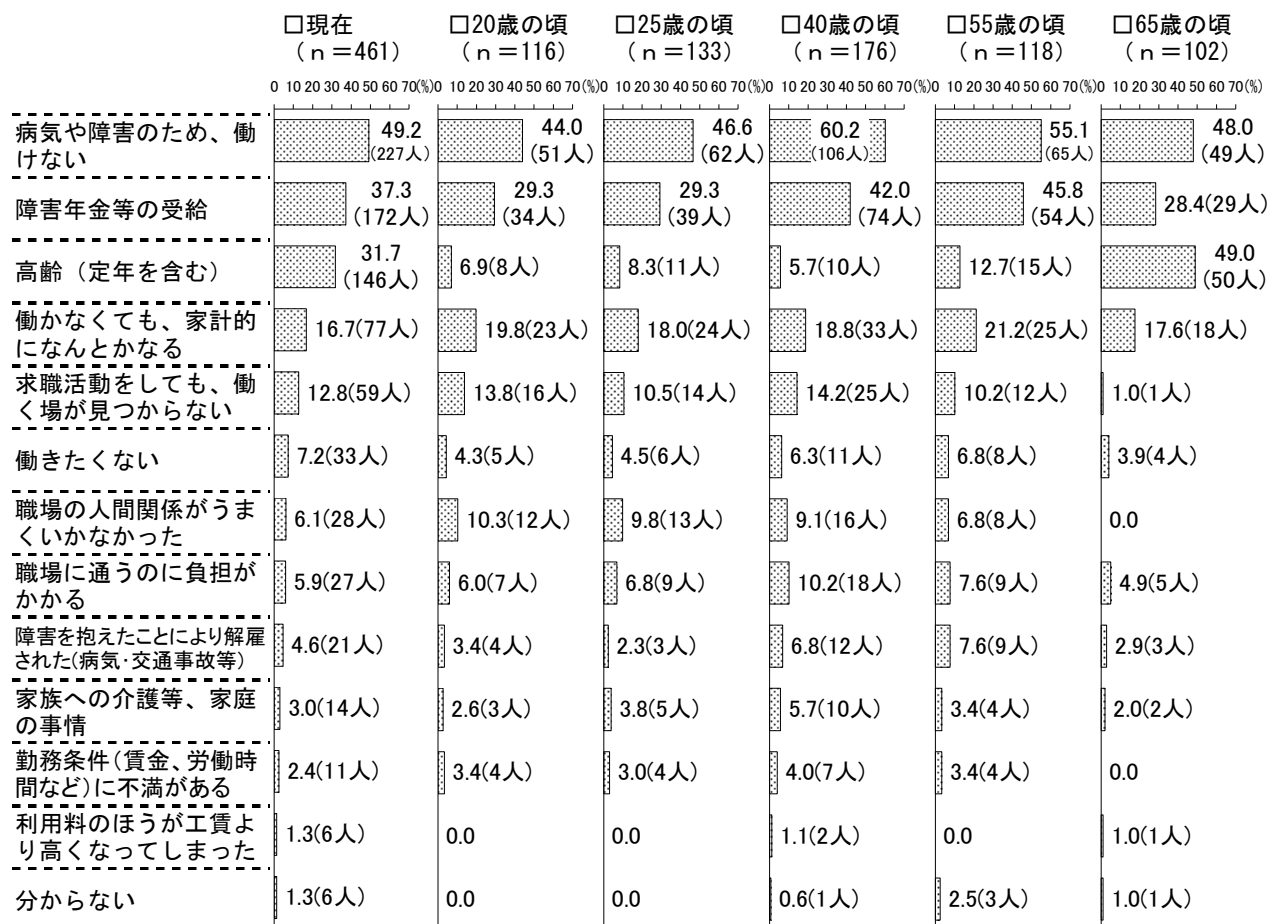
「病気や障害のため、働けない」は、65歳の頃（48.0%）で2番目に多い理由となっている以外は、すべての時期で最も多い理由となっている。「障害年金等の受給」は、65歳の頃（28.4%）で3番目に多い理由となっている以外は、すべての時期で2番目に多い理由となっている。「高齢（定年を含む）」は、65歳の頃（49.0%）で最も多く、現在（31.7%）でも3番目に多い理由となっている。（図表8-1-10）

【障害者手帳種別（現在仕事をしていない理由）】

すべての障害種別において「病気や障害のため働けない」「障害年金等の受給」が多い。このほか、身体障害では「高齢」（42.8%）が、知的障害では「求職活動をして働ける場が見つからない」（21.8%）が多くなっている。精神障害では、「働かなくても家計的になんとかなる」（22.9%）、「求職活動をして働ける場が見つからない」（19.8%）が多くなっている。（図表8-1-12）

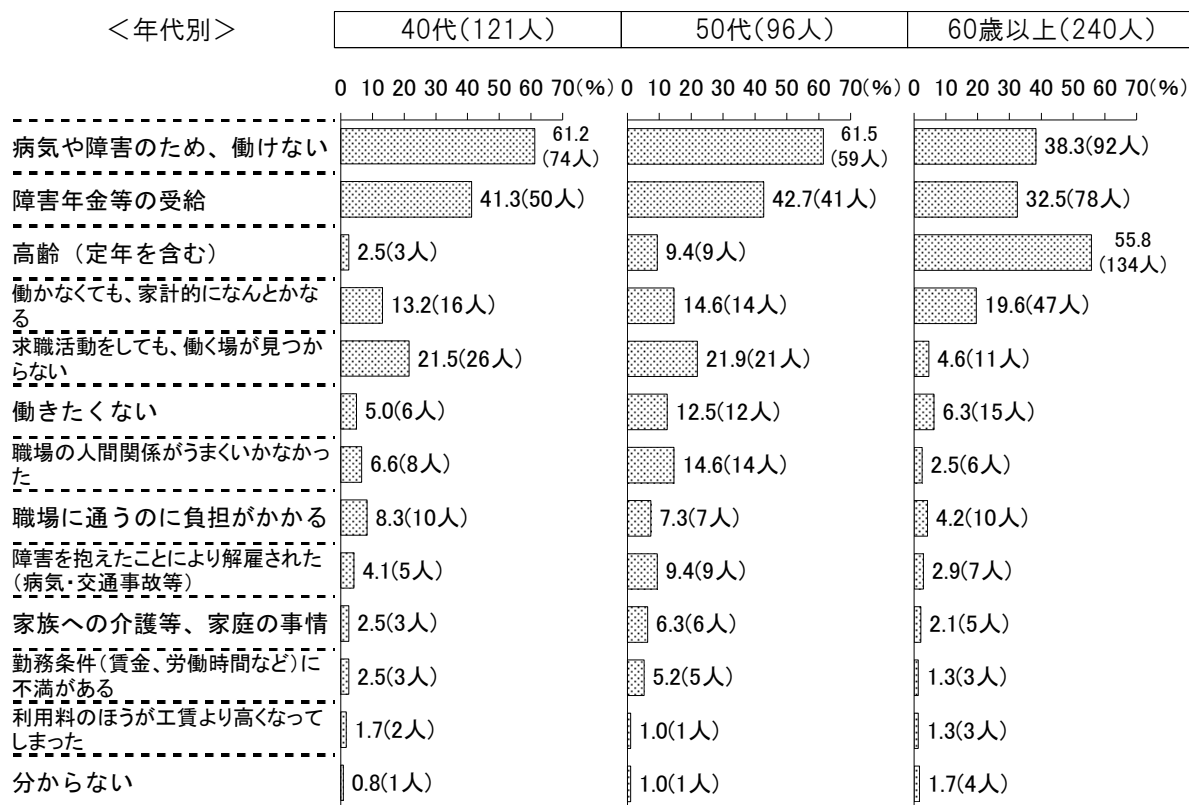
【年代・加齢（現在仕事をしていない理由）】大きな傾向の違いはみられない。

図表8-1-10

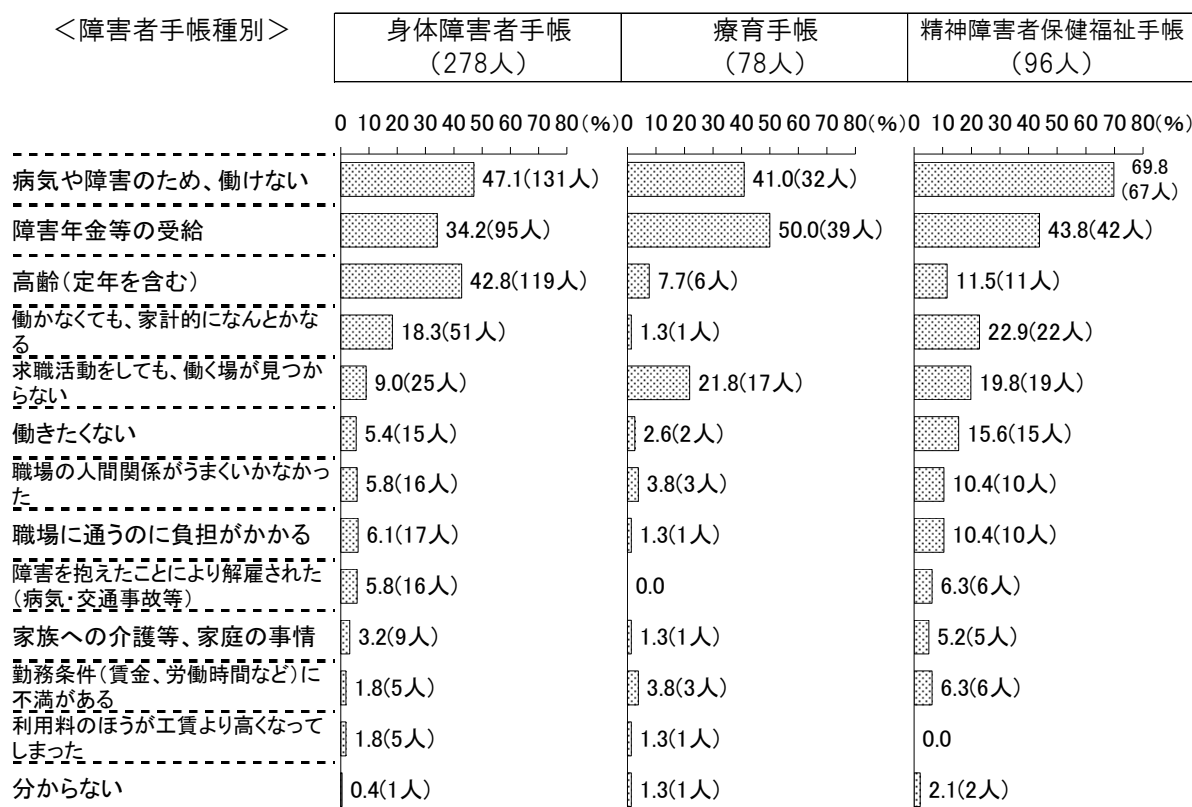


以下の図表８－１－１１～図表８－１－１６（２３０～２３４ページ）は、現在仕事をしていない理由についてクロス集計した結果を示す。

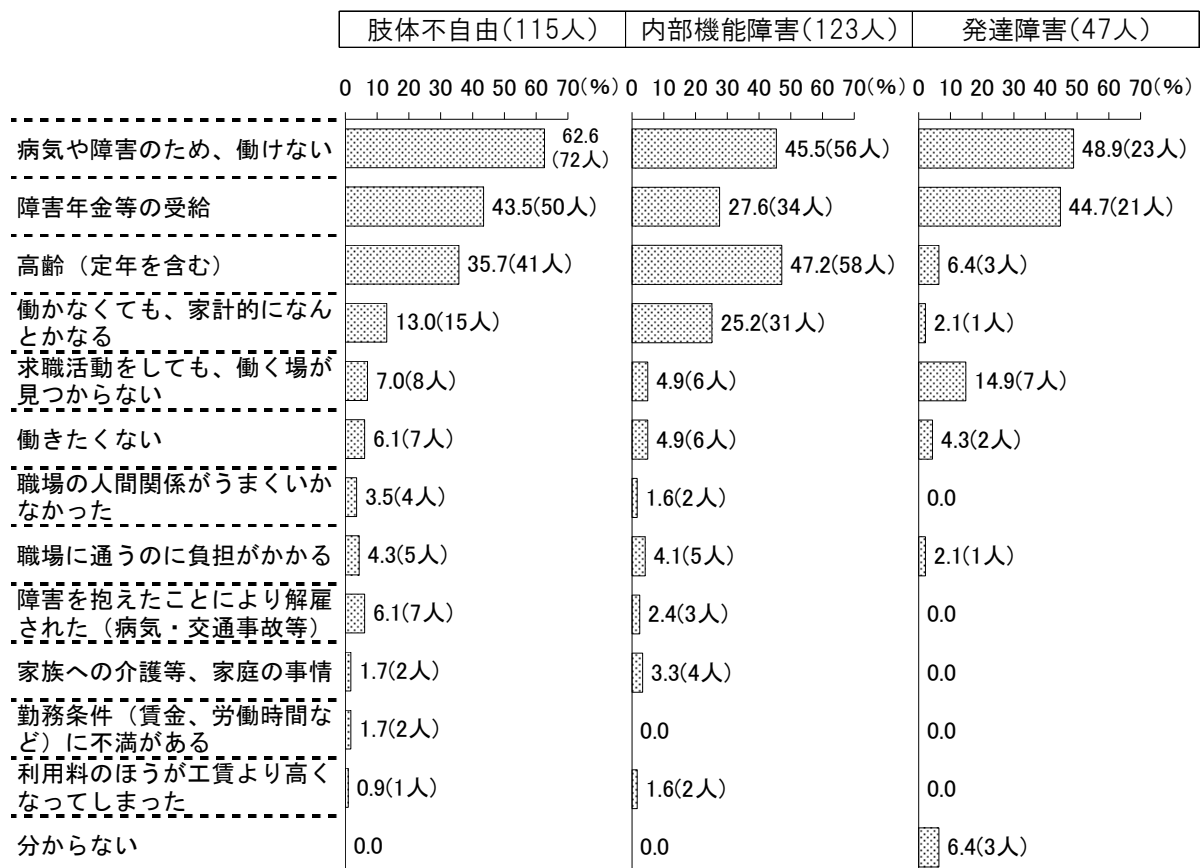
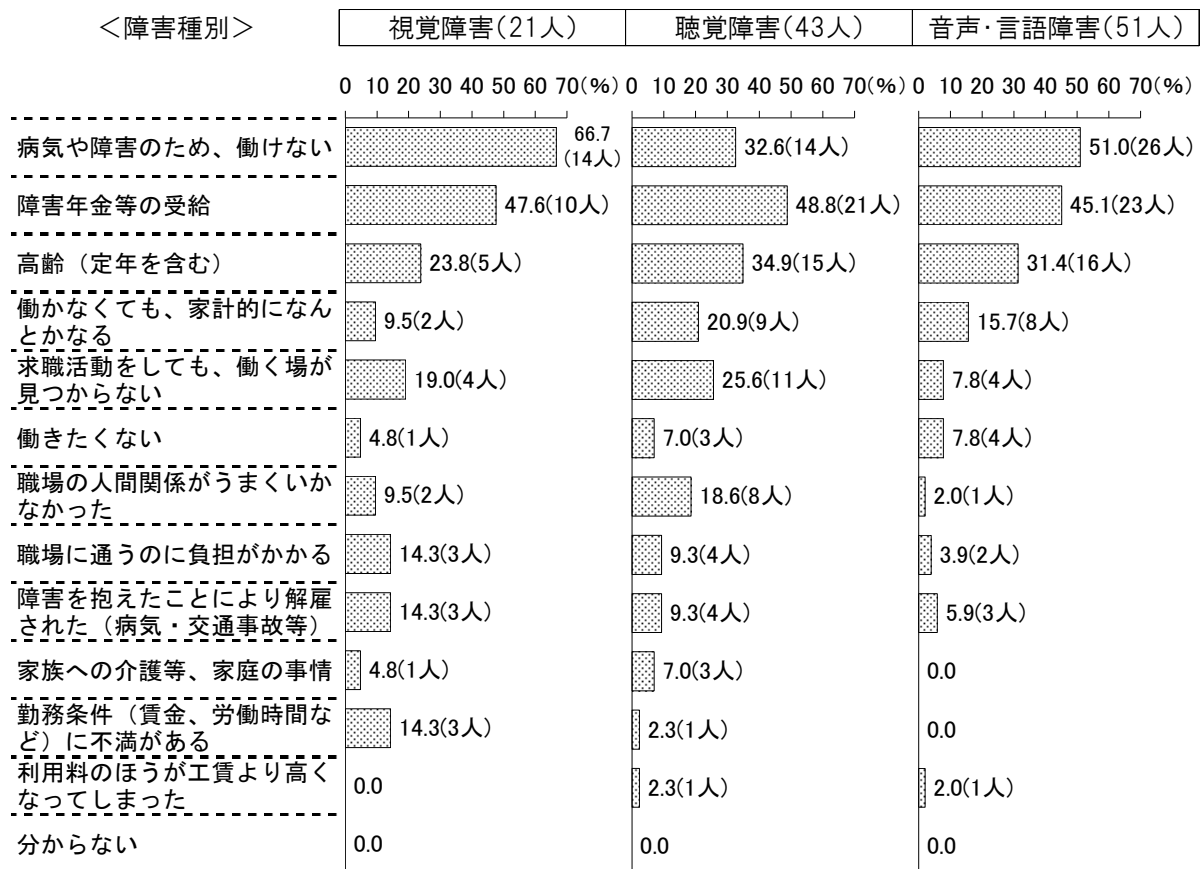
図表８－１－１１ ＜在宅＞現在仕事をしていない理由－年代別



図表８－１－１２ ＜在宅＞現在仕事をしていない理由－障害者手帳種別



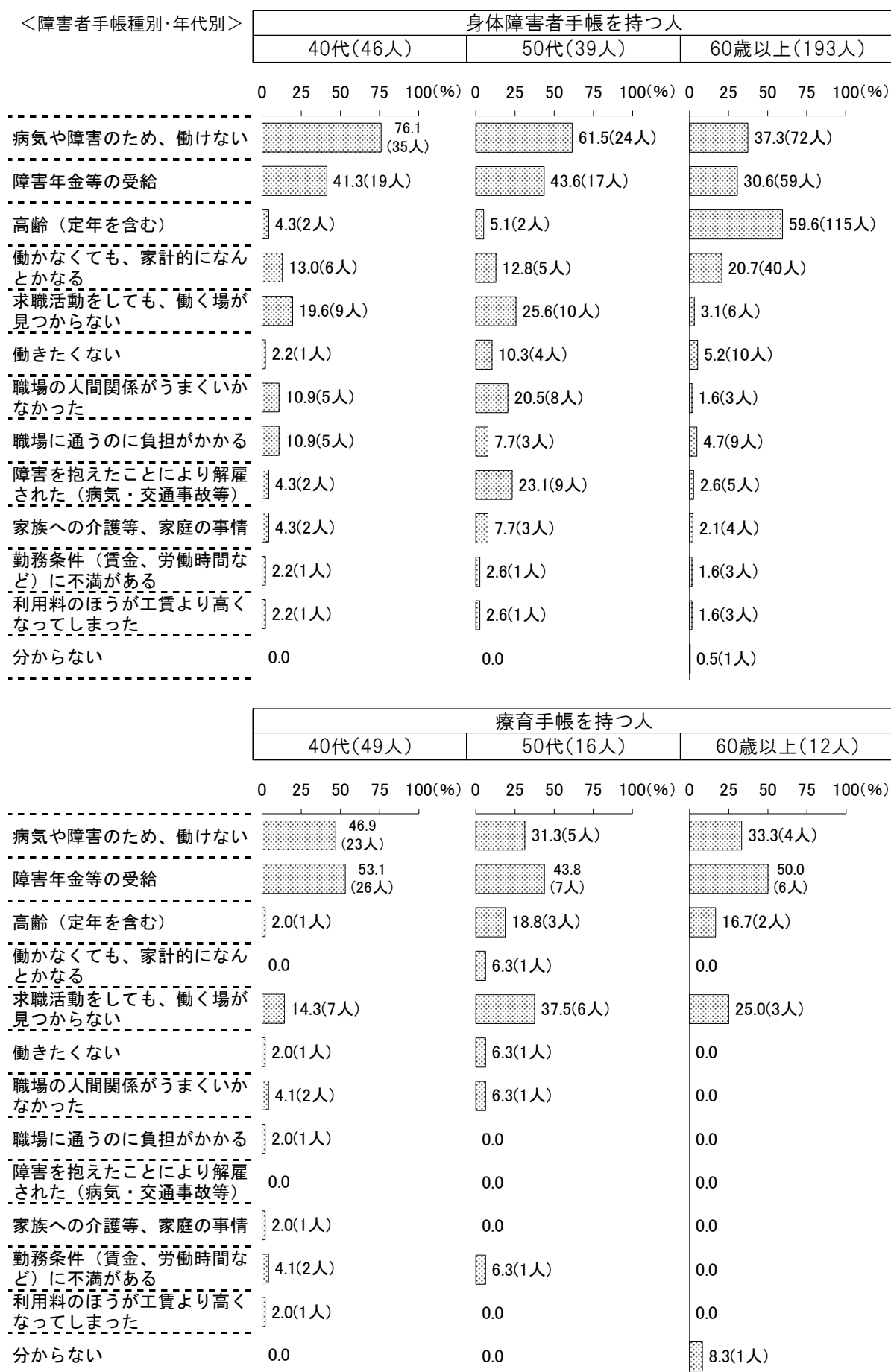
図表 8－1－13 ＜在宅＞現在仕事をしていない理由－障害種別



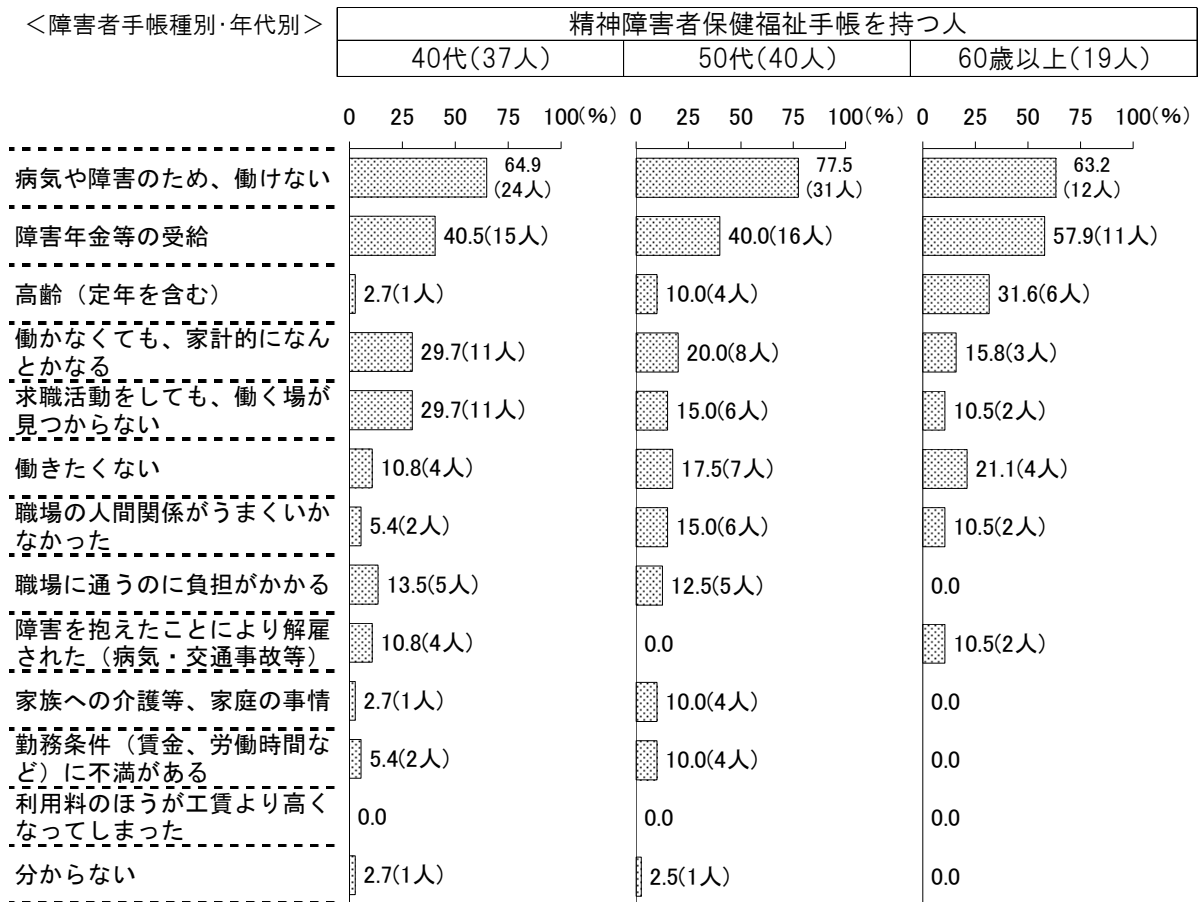
図表 8-1-14 <在宅>現在仕事をしていない理由一同居家族別



図表 8－1－15 ＜在宅＞現在仕事をしていない理由－障害者手帳種別・年代別



図表 8－1－16 ＜在宅＞現在仕事をしていない理由－障害者手帳種別・年代別（つづき）



(1-2) <在宅問36> 仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること

(「現在仕事をしている」と回答した方にお聞きます。)

問. 仕事を継続する上で、年齢を重ねることにより困難になってきていることはありますか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

「身体能力の低下により作業効率が悪くなった(耳が遠い、小さい字が読めない、手先の細かい作業がやりにくいなど)」が28.0%で最も多く、次いで「人の話を理解したり、記憶したりすることが難しくなった」(15.3%)、「仕事に対する気力が薄れてきた」(14.4%)の順となっている。「特にない」は42.8%である。(図表8-1-17)

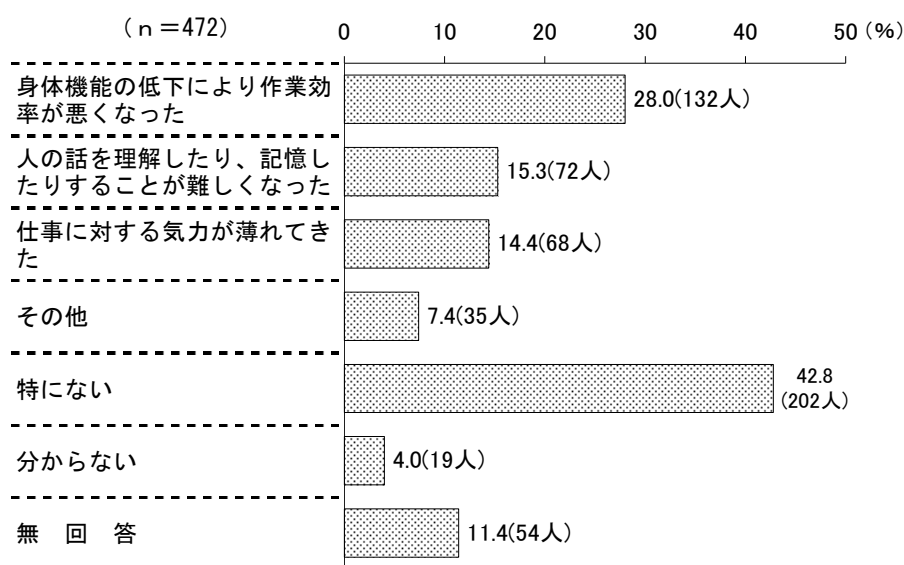
【障害者手帳種別】

身体障害・知的障害では「特にない」(身体44.7%、知的49.7%)が最も多く、次いで「身体機能の低下により作業効率が悪くなった」(身体25.3%、知的29.4%)が多くなっている。精神障害では、他の障害と比べて「特にない」(27.6%)の割合が低く、「人の話を理解したり、記憶したりすることが難しくなった」(30.3%)、「仕事に対する気力が薄れてきた」(23.7%)の割合が高くなっている。(図表8-1-19)

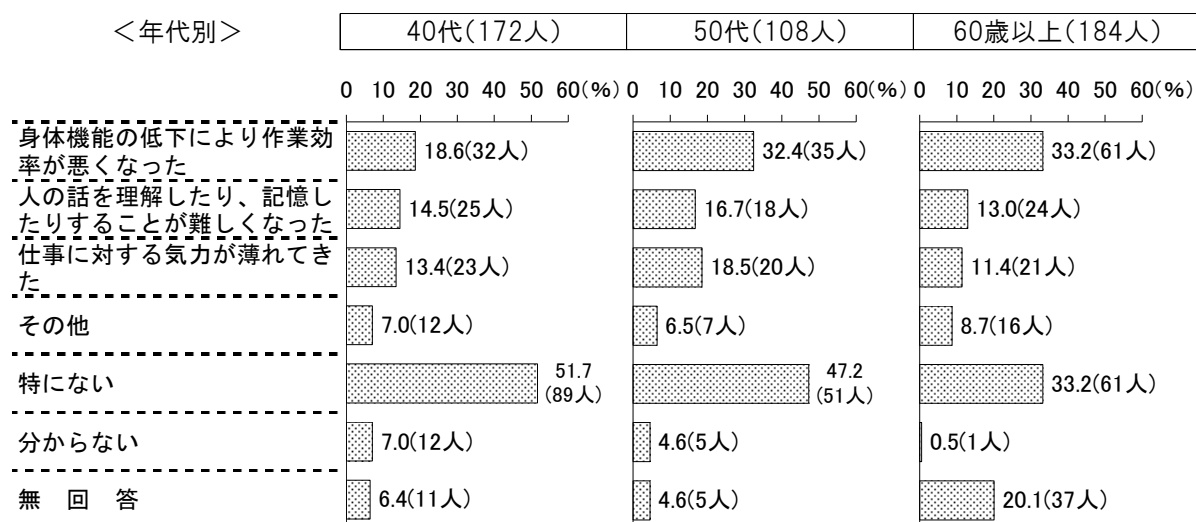
【年代・加齢】

年代が進むにつれ、「特にない」の割合が低くなり、「身体機能の低下により作業効率が悪くなった」の割合が高くなっている。(図表8-1-18)

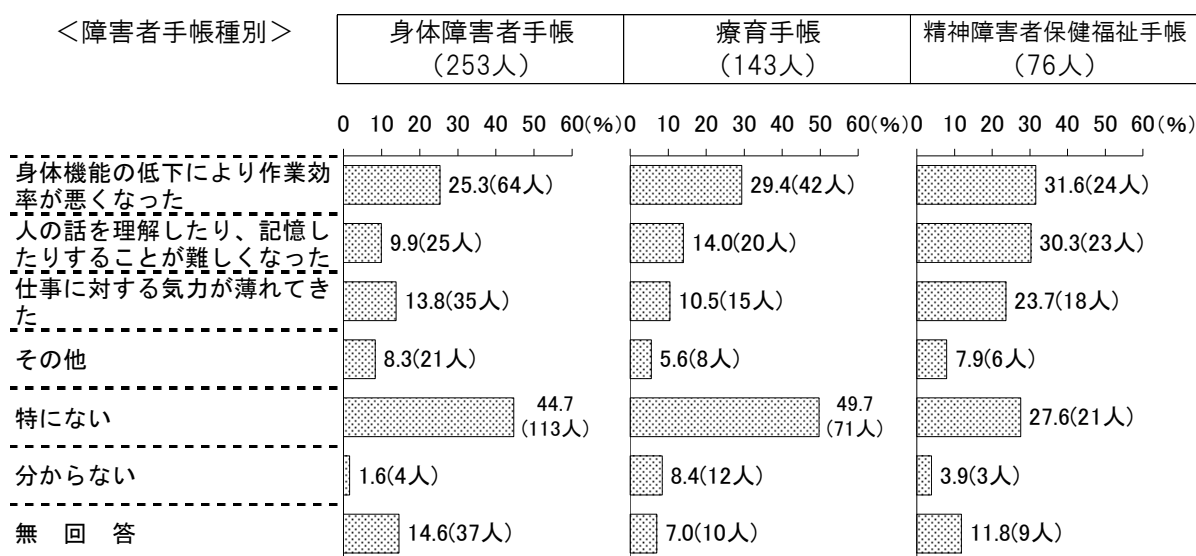
図表8-1-17



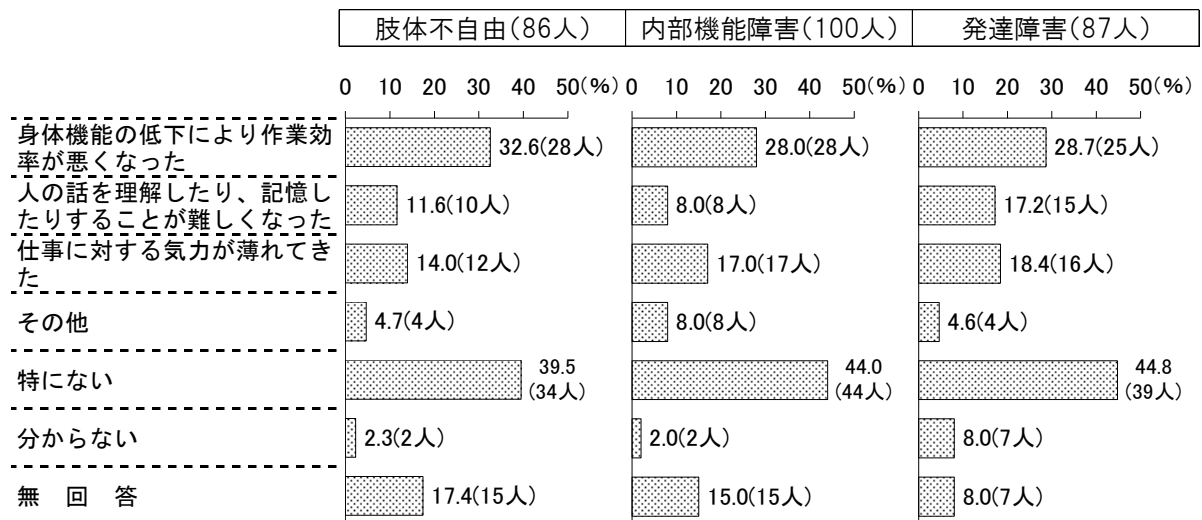
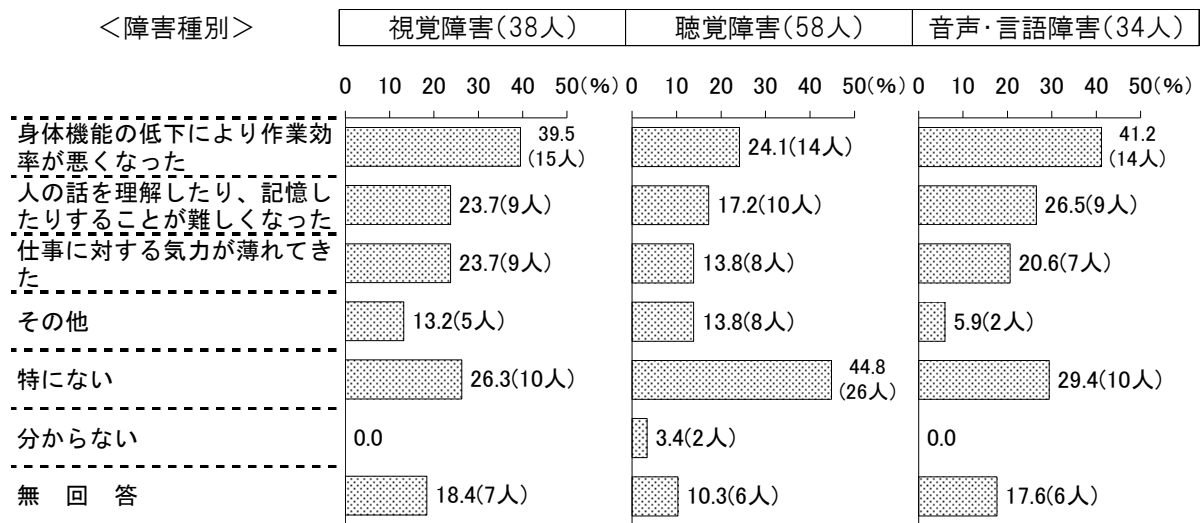
図表 8－1－18 ＜在宅＞仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること一年代別



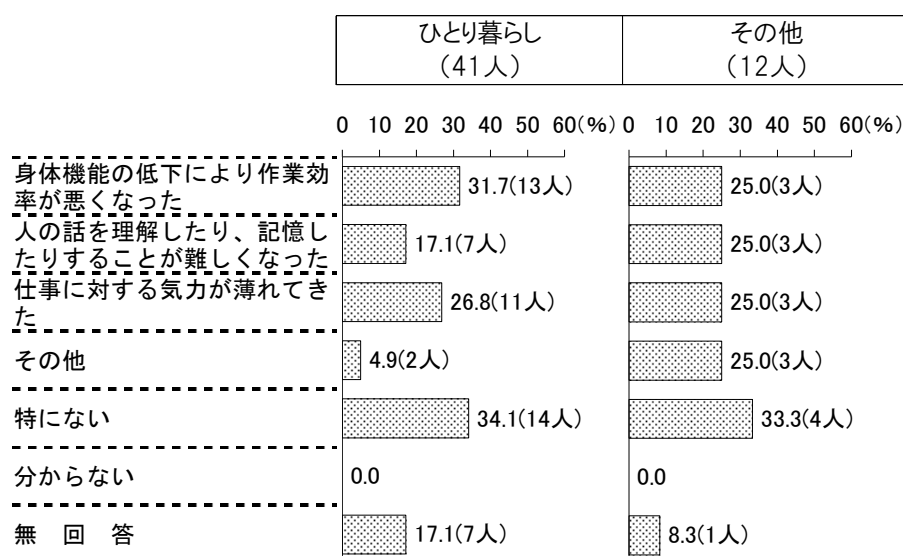
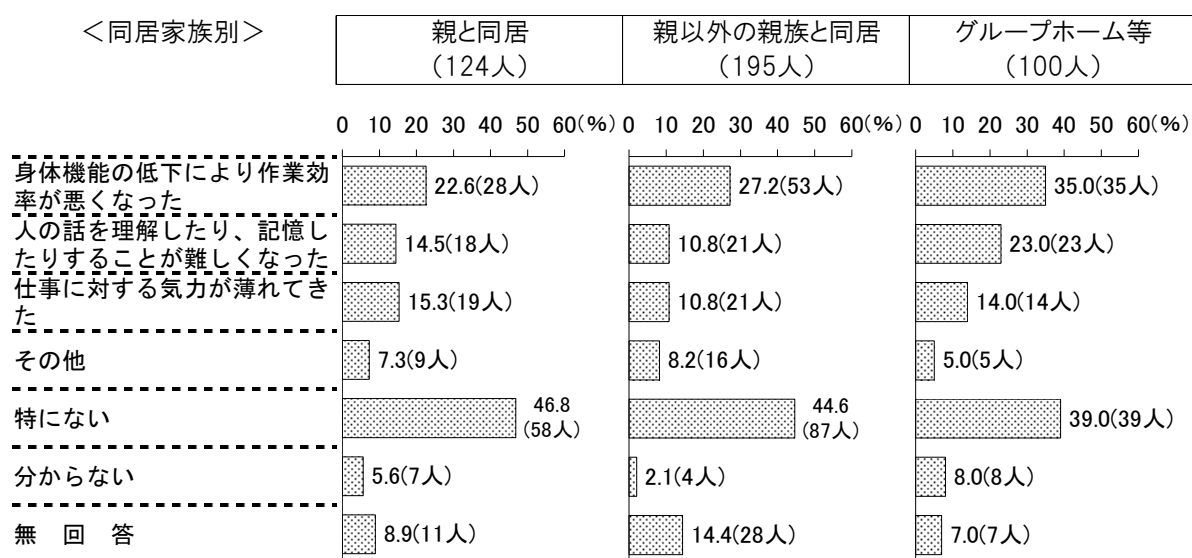
図表 8－1－19 ＜在宅＞仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること－障害者手帳種別



図表 8－1－20 ＜在宅＞仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること－障害種別



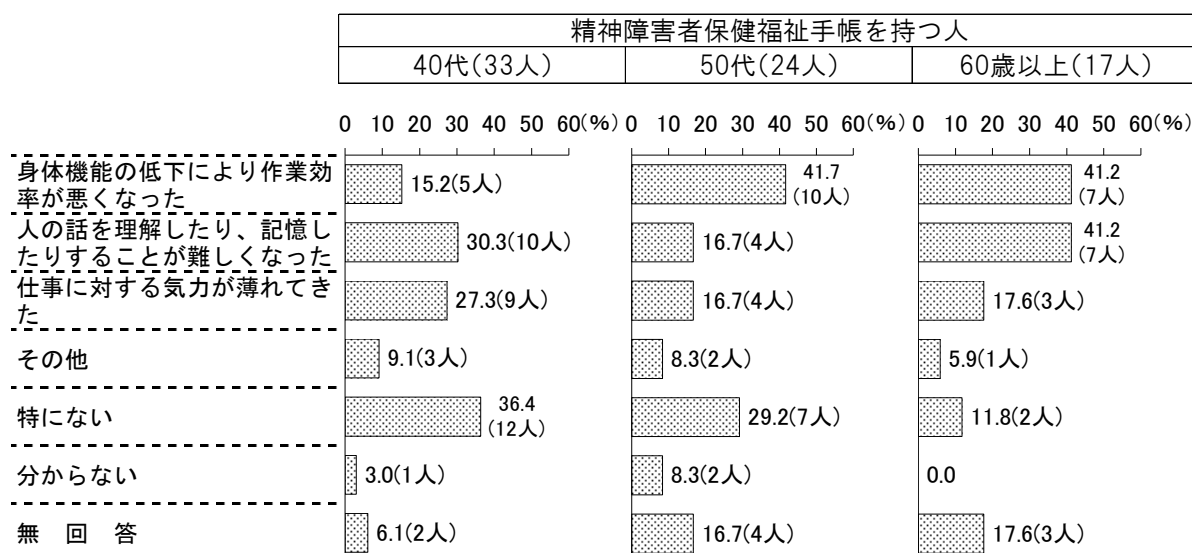
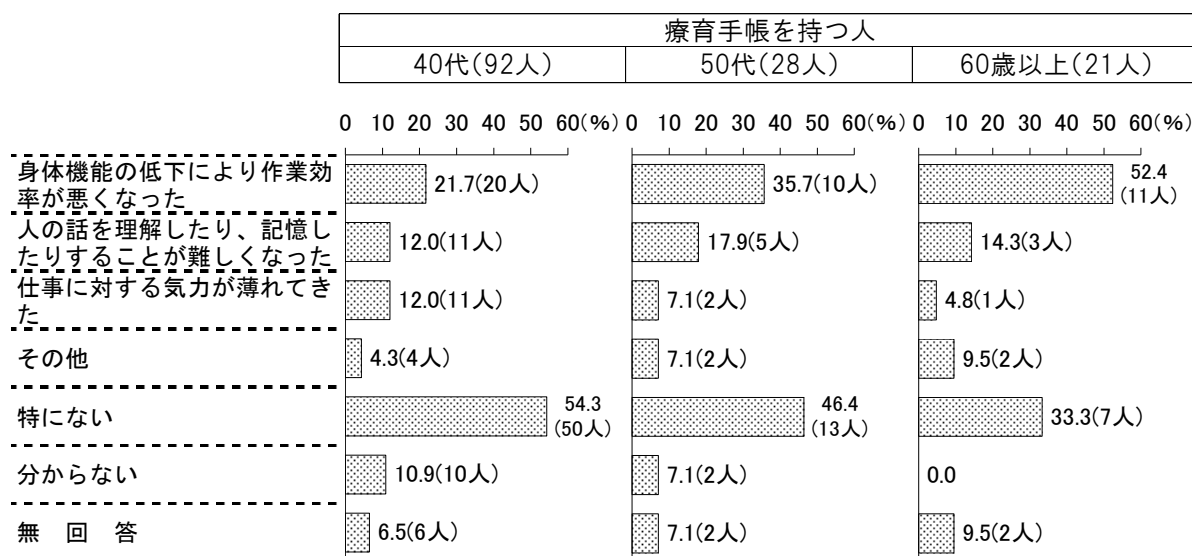
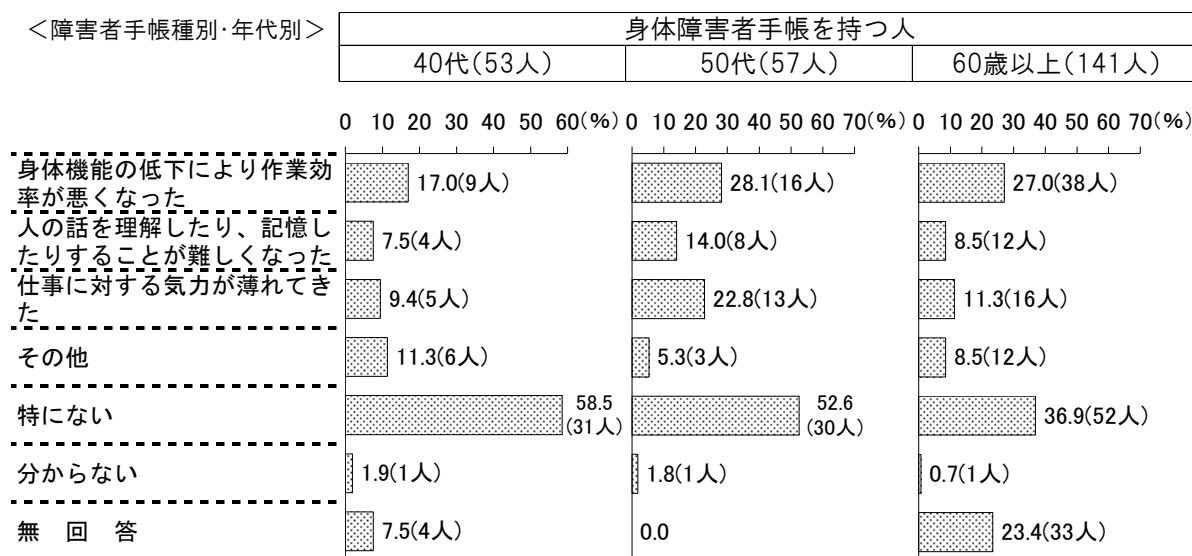
図表 8－１－21 ＜在宅＞仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること一同居家族別



図表 8-1-22 <在宅>仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること

－障害者手帳種別・年代別

<障害者手帳種別・年代別>



(1-3) <在宅問37> 仕事を辞めたあとの生活の希望

(「現在仕事をしている」と回答した方にお聞きします。)

問. 仕事を辞めたあと、どのように生活していきたいと思いますか。

あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

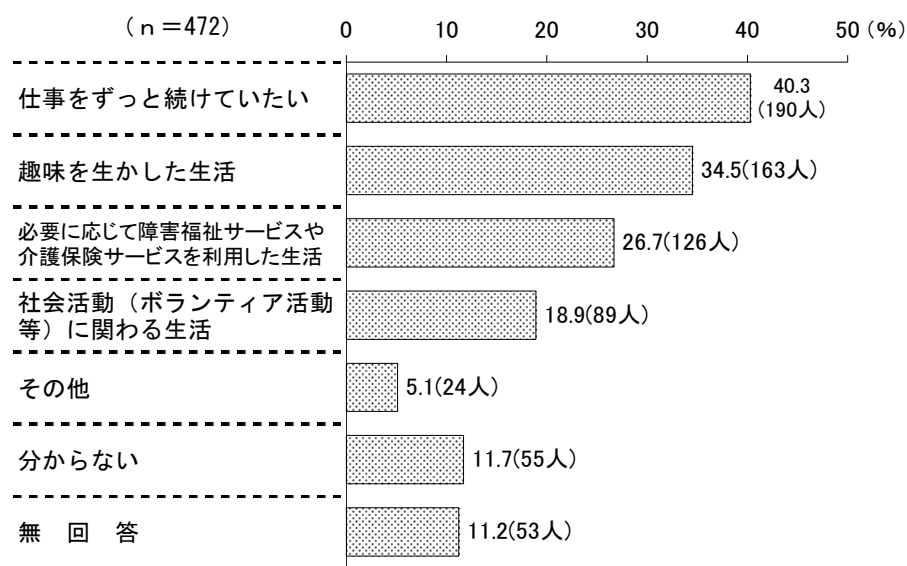
「仕事をずっと続けていたい」が40.3%で最も多く、次いで「趣味を生かした生活」(34.5%)、「必要に応じて障害福祉サービスや介護保険サービスを利用した生活」(26.7%)、「社会活動(ボランティア活動等)に関わる生活」(18.9%)の順となっている。(図表8-1-23)

【障害者手帳種別】

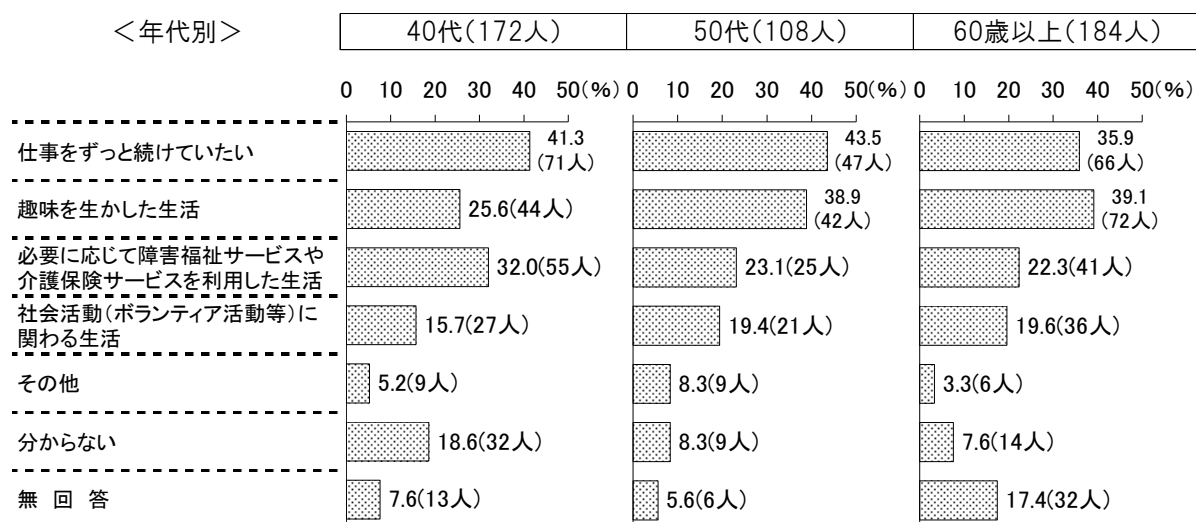
身体障害では「趣味を生かした生活」が多く(48.6%)、知的障害、精神障害では「仕事をずっと続けていたい」(知的46.9%、精神42.1%)、「必要に応じて障害福祉サービスや介護保険サービスを利用した生活」(知的23.3%、精神28.0%)が多い。(図表8-1-25)

【年代・加齢】大きな傾向の違いはみられない。

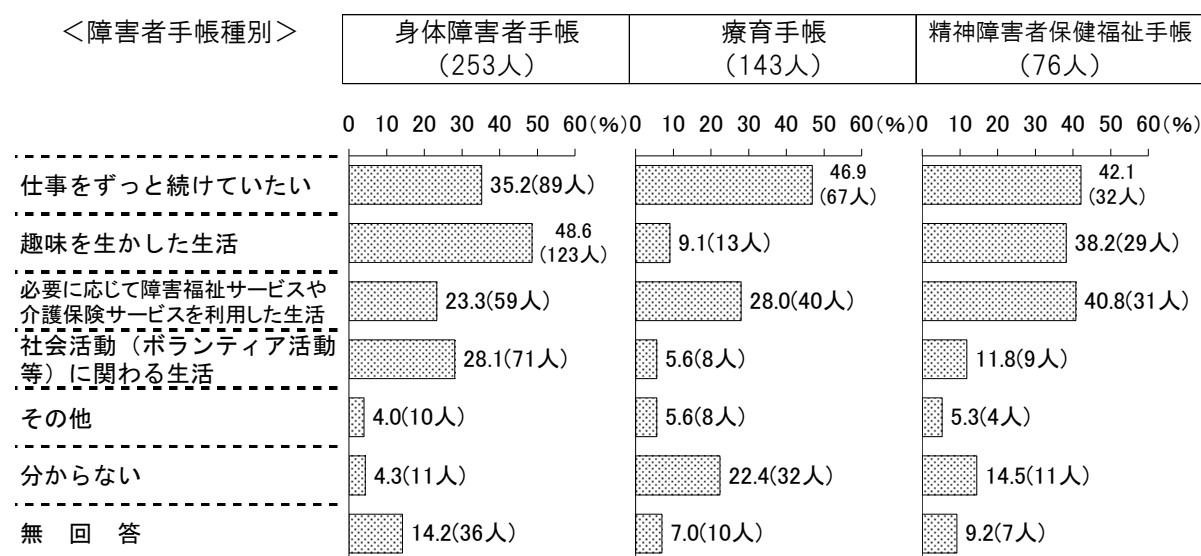
図表8-1-23



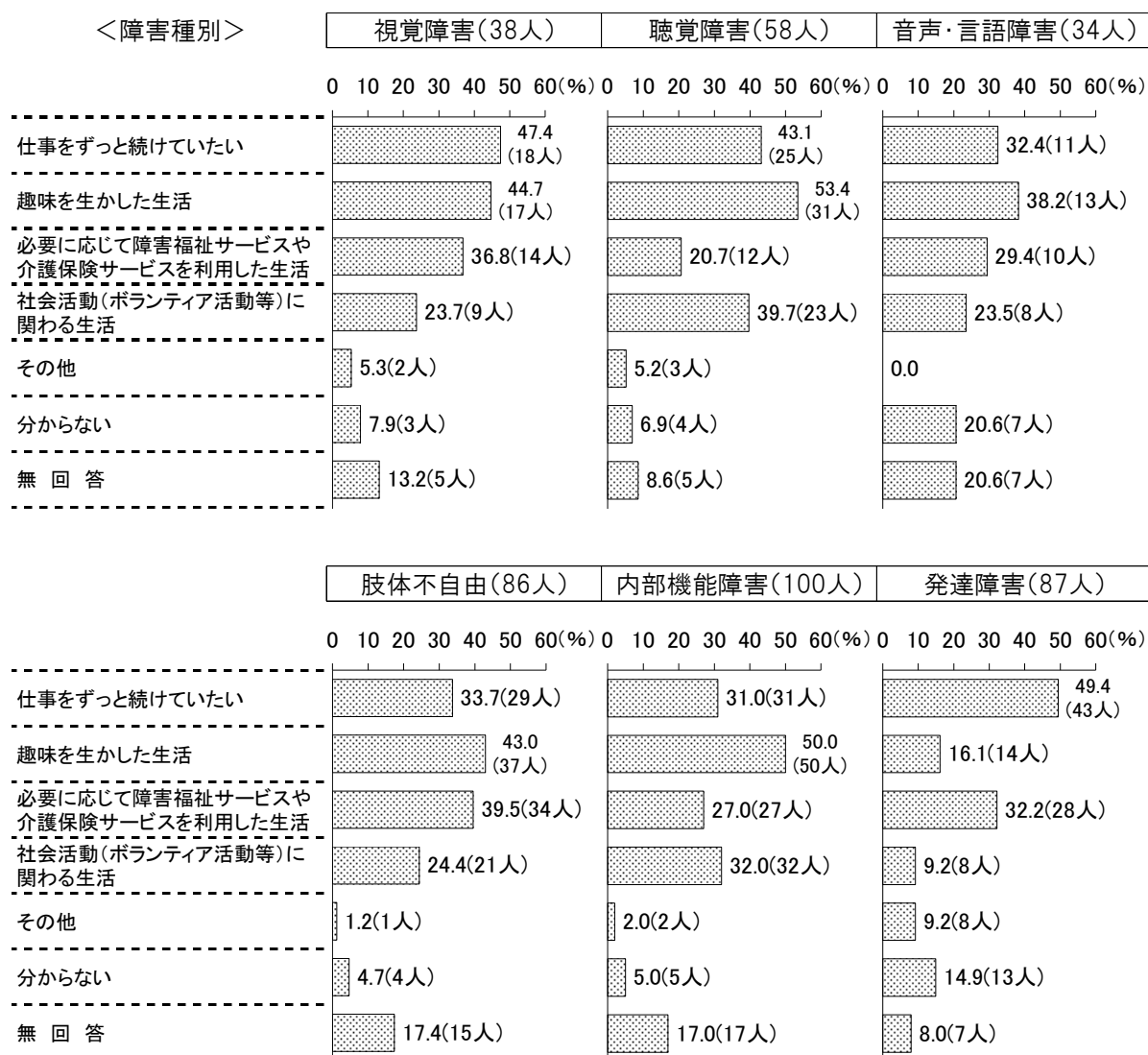
図表 8－1－24 ＜在宅＞仕事を辞めたあとの生活の希望－年代別



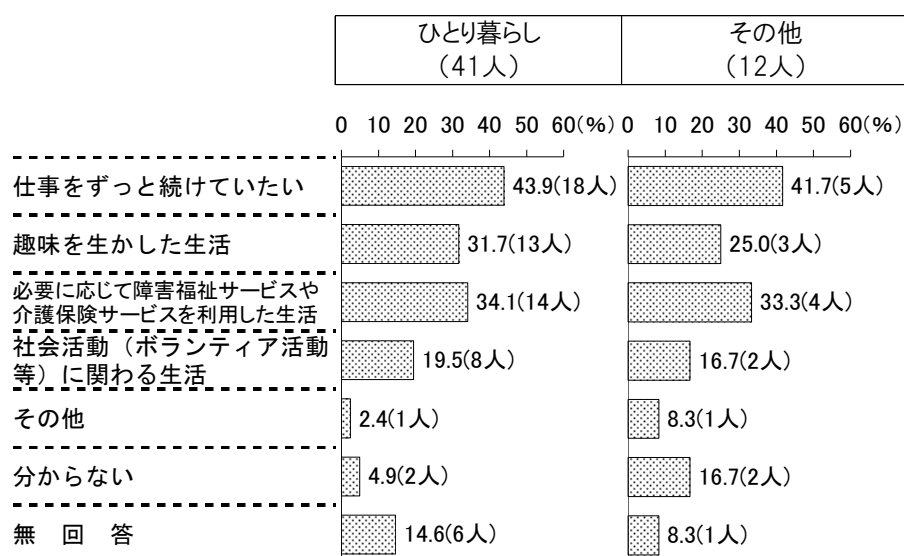
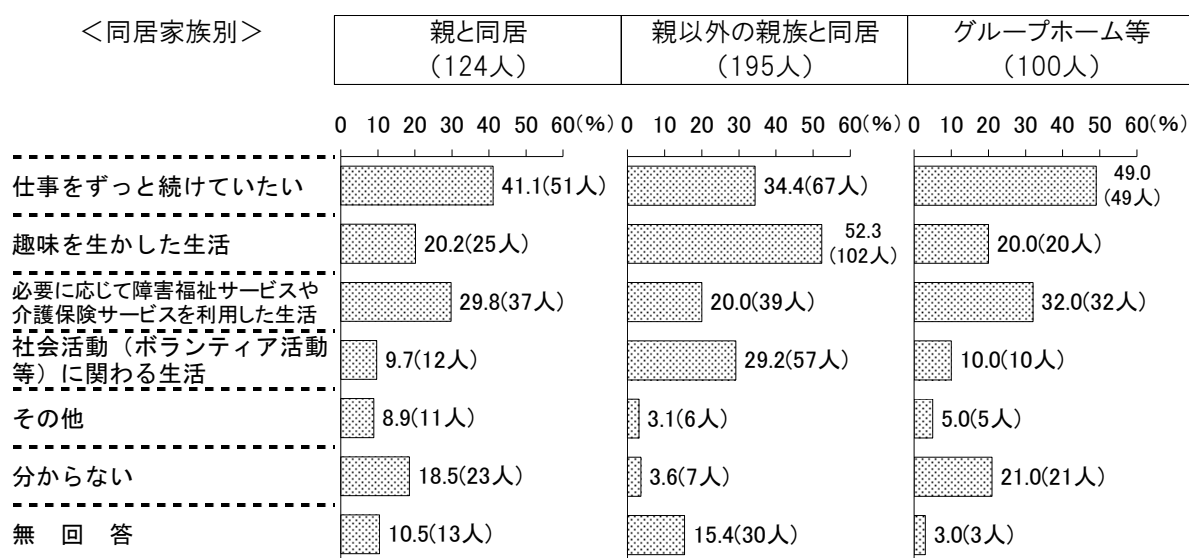
図表 8－1－25 ＜在宅＞仕事を辞めたあとの生活の希望－障害者手帳種別



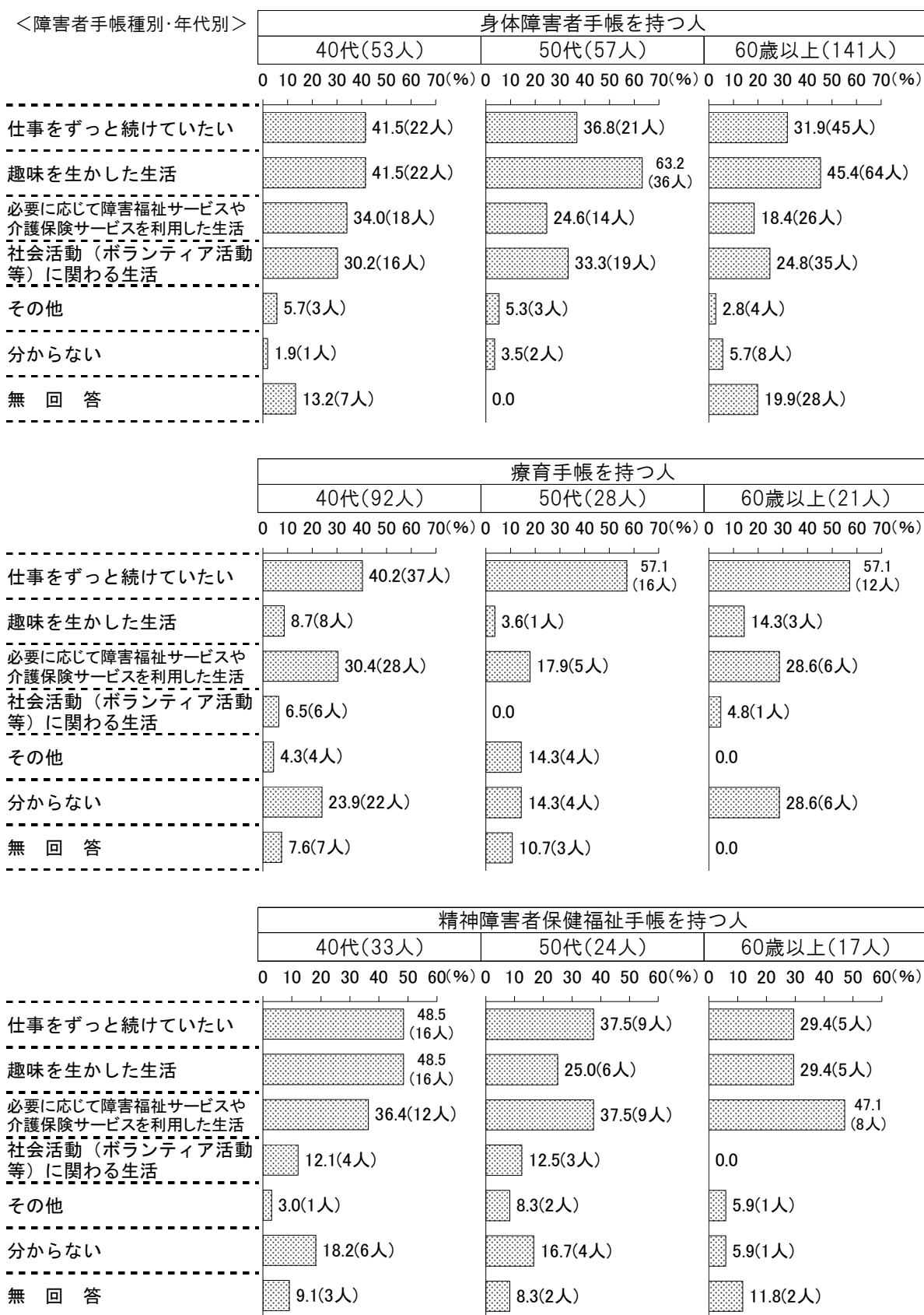
図表 8－１－26 ＜在宅＞仕事を辞めたあとの生活の希望－障害種別



図表 8－1－27 ＜在宅＞仕事を辞めたあとの生活の希望－同居家族別



図表 8-1-28 <在宅>仕事を辞めたあとの生活の希望―障害者手帳種別・年代別



(1-4) <在宅問38> 障害者への就労支援サービスの認知度

(「現在仕事をしている」と回答した方にお聞きます。)

問. 障害者への就労支援サービス((例) 障害者就業・生活支援センター、就労継続支援など)を知っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

【概要】

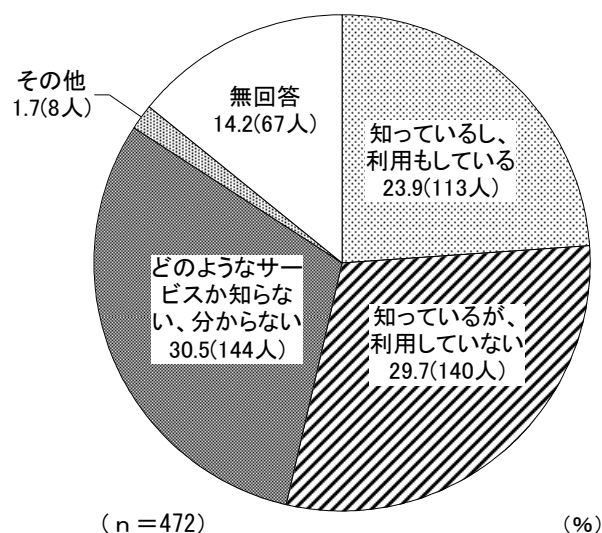
「知っているし、利用もしている」が23.9%、「知っているが、利用していない」が29.7%となっている。「どのようなサービスか知らない、分からない」は30.5%である。(図表8-1-29)

【障害者手帳種別】

精神障害で「知っている(計)」が65.8%、「利用している」が52.6%で、他の障害と比べて割合が高い。(図表8-1-30)

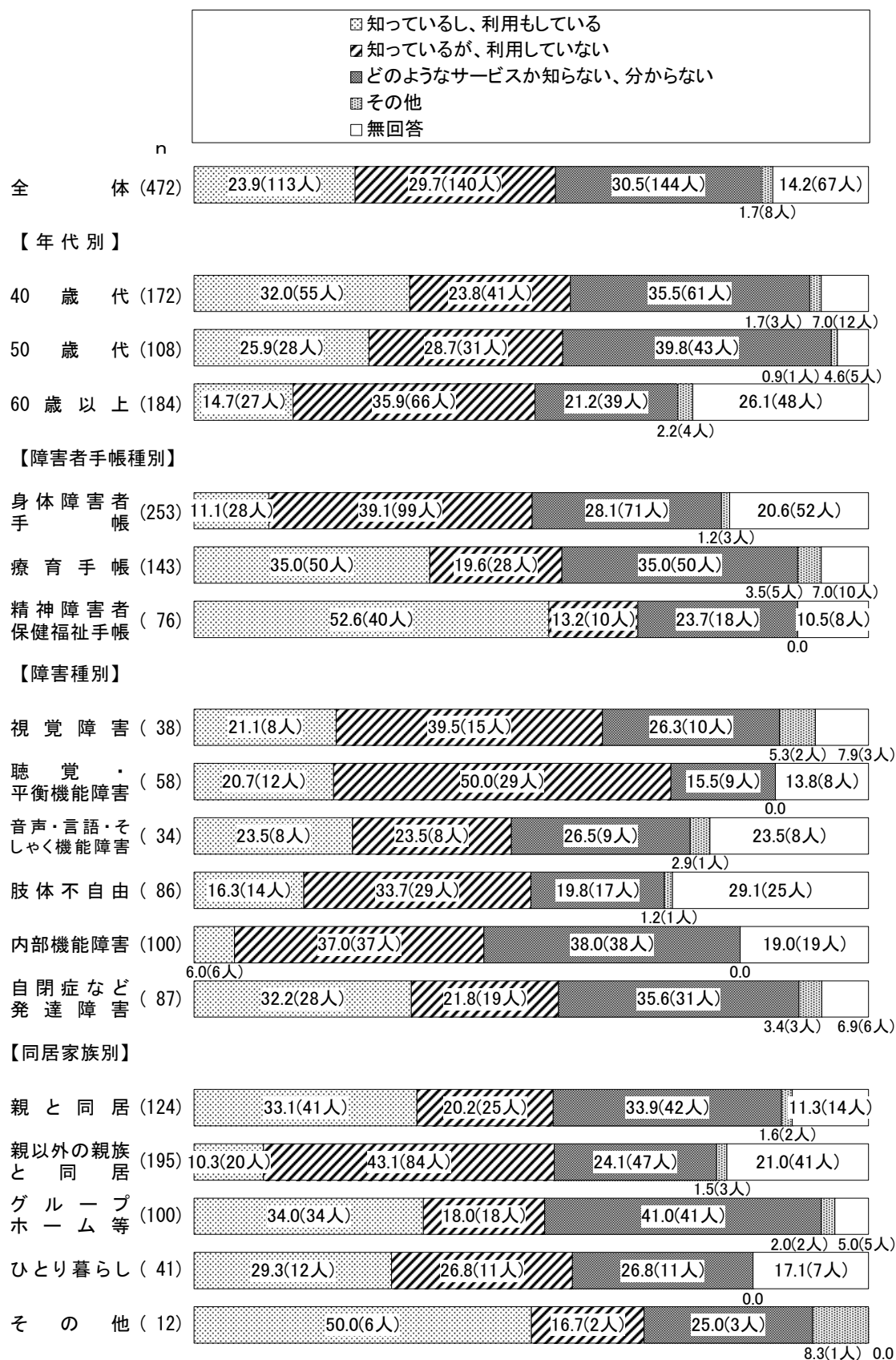
【年代・加齢】大きな傾向の違いはみられない。

図表8-1-29



図表 8-1-30 <在宅>障害者への就労支援サービスの認知度

一年代別、障害者手帳種別、障害種別、同居家族別



図表 8－1－31 ＜在宅＞障害者への就労支援サービスの認知度－障害者手帳種別・年代別

